

菊池論文に対するコメント

菅原琢磨（国立保健医療科学院）

総括的なコメント

病床数の増加要因や動向を分析した先行研究は幾つか散見されるが、その分析単位は国全体や都道府県レベルであり、また病院病床全体を対象としていた。菊池論文は、医療計画の策定単位である二次医療圏を分析単位とし、また療養病床に焦点を絞った点に大きな特徴があり、医療提供体制の再編の中で今後の動向が注目される療養病床数に影響をおよぼす（した）要因を実証的に明らかにした点は高く評価される。

コメント

- 二次医療圏単位にデータを再編する都合上、分析から脱落する圏域が出ている。これについては「脱落二次医療圏」と「非脱落二次医療圏」を比較した表4を追加することで良心的な対応がとられているが、結果的に後期高齢化率、療養病床比率が有意に高い地域が分析から除外されたことのバイアスが、本論で示した含意に影響を与えうるものなのかは気にかかる。
- 今後、療養病床が老人保健施設などへの大幅な転換を求められる状況下で、データセットの中に特別養護老人ホームや養護老人ホーム、有料老人ホームがあつて（データの制約とはいえ）老人保健施設が入っていない点については、何らかの形で善処すべきであろう。